



2019年3月28日

各 位

会社名 株式会社テ゜・ウェスタン・セラピ゜テクス研究所
代表者名 代表取締役社長 日高 有一
(コード番号:4576)
問合せ先 取締役総務管理部長 川上 哲也
TEL 052-218-8785

当社株式の業績基準に係る猶予期間入りに関するお知らせ

当社は、本日、有価証券報告書を提出し、2015年12月期から2018年12月期まで4期連続(*)で営業利益及び営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなったことから、本日の株式会社東京証券取引所からの発表のとおり、有価証券上場規程第604条の4第1項第1号(関連規則は同第604条の2第1項第2号)に定める上場廃止基準に係る猶予期間入り銘柄となりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 上場廃止に係る猶予期間入りに至った経緯

当社グループは、「日本発の画期的な新薬を世界へ」という企業理念のもと、自社の強みである基礎研究に注力し、「新薬の継続的な創出」と「パイプラインの拡充」を目指し、研究開発活動を推進してまいりました。加えて、当社初となる自社で行う臨床試験(緑内障治療剤H-1337の米国開発)や、他社事業の譲受(眼科手術補助剤DW-1002)等、新しい取り組みも行ってきました。

その結果、売上高は、自社創薬であるグラナテック®点眼液0.4%(以下「グラナテック」)の2014年12月上市によるロイヤリティ収入や2017年4月に事業譲受したDW-1002の欧州でのロイヤリティ収入等が順調に拡大してきています。一方で、今後の収益力向上及び企業価値増大のために、眼科領域における臨床開発事業進出に向けた日本革新創薬株式会社の子会社化やH-1337の臨床開発を積極的に行ったことにより、過去2年間においては約14億円の研究開発費が掛かっており、上場以来黒字化に至っておりません。

これらの結果、当社グループの2018年12月期の連結業績は、売上高292百万円、営業損失786百万円、経常損失796百万円、親会社株主に帰属する当期純損失748百万円となり、4期連続して営業利益及び営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを計上することとなりました。

※ 実際には2009年12月期以降マイナスを計上しておりますが、新規上場の申請を行った日の属する事業年度の翌事業年度から5事業年度(2010年12月期～2014年12月期)は、「5年連続」をカウントする対象には含まれません。

2. 猶予期間

2019年1月1日～2019年12月31日

3. 今後の見通し

今後も引き続き、収益源の確保と収益力の向上のために、「開発パイプラインの拡充」と「事業領域の拡大」に力を入れて、自社上市品の増加充実を図ってまいります。

2019年12月期の通期連結業績予想は、増収効果と費用削減効果により、上場来初の黒字化を見込んでおります。

売上高は、上市薬であるグラナテックやDW-1002の欧州でのロイヤリティ収入等が拡大を続ける見通しであるほか、H-1129の国内第Ⅲ相臨床試験開始及びDW-1002の日本での申請に伴うマイルストーン収入、並びに日本の白内障手術のライセンス契約締結による契約一時金収入を予定しています。

なお、H-1129の国内第Ⅲ相臨床試験は1月10日に開始されており、DW-1002の日本の白内障手術のライセンス契約については、2月18日に締結しており、各々契約に基づくマイルストーン及び契約一時金を受領しております。詳細につきましては、各日付にて公表したリリースをご参照ください。

損益面では、過去2年間で約7億円強掛けてきたH-1337の米国での開発が終了し、今期の研究開発活動は通常ペースに戻るため、研究開発費は260百万円と前期までと比べて大幅に減少するほか、役員報酬の減額及びその他販売費及び一般管理費の徹底的な見直しによるコスト削減に取り組み、黒字化達成を目指してまいります。

2019年の通期連結業績予想の詳細につきましては、2019年2月14日公表の「2018年12月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の2019年12月期の連結業績予想、「2019年12月期の連結業績予想について」及び向こう3ヶ年の計画である「2019年12月期～2021年12月期 中期経営計画」の2019年に係る記載をご参照ください。

以上